僕らの書展 2014

会期◉平成26年8月28日～31日
会場◉池袋・東京芸術劇場

14年夏、東京・池袋で
若手作家の花が咲く!!

現在の気持ちを紙面にぶつけた迫力の作品が並ぶ

フレッシュな筆致の大作群に見ごたえ

二〇一〇年から二年毎に展覧会を行い、徐々に認知度を高めつつある「僕らの書展」。第一、第二回展は栃木県総合文化センターで開催し、ひそかに「今度は東京で」と願ってきたメンバーの思いが今年、ついに実現した。

同展は、同実行委員会の主催。委員は言うまでもなく、メンバー一人ひとりだ。毎日展評議員・審査員、独立書人団常務理事、抱一会理事長の柿下木冠氏を〝相談役〟に、六月の出品作品研討会を経て、秋元央嗣、泉諒治、伊藤聡美、内野直弥、岡佑樹、佐藤達也、長谷川結、早川燿、前田耕作の九氏による大作を中心とした二七点が、池袋の東京芸術劇場の壁面を埋め尽くした。

内容的には、独立系の作品によく見られる、やや横長のサイズに少字数を書いた超大作が多くみられたが、それぞれ飛沫を効かせた作やうねるような動きで魅せた作、墨溜まりが偶然作り出す模様を見どころにした作、余白を入念に計算に入れて書かれた作など、各氏のやりたいことや目指している方向性といったものがダイレクトに見る者に迫ってくる。また、本展のメンバーは平均年齢が若く、現役の学生も多いが、いま抱えている諸々の悩みも含めて、書作に対する率直な思いが紙面に投影されており、それが来場者の心を揺さぶる結果ともなっている。

まだ通算三回目の同展。これから多くのメンバーが次々と社会へと羽ばたき活躍していくが、その時こそ彼らにとって同展が大きな意味を持つに違いない。今後が楽しみになる書展だった。